早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨
3619-2

W
学位論文
3619
2

博士（人間科学部）学位論文　概要書

良寛の生き方と思想の現代的意味

（エイジング、生涯学習などの視点から）

２００３年７月

早稲田大学大学院人間科学研究科

荒井　魏

良寛の生き方と思想の現代的意味
（エイジング、生涯学習などの視点から）

江戸時代中期の禅僧、良寛は、最近の物の豊かさの中での心の豊かさ感覚のなさなどもあって、その生き方に学びたいといった人たちが増えている。

しかし、今もって良寛は聖僧、あるいは奇僧、そして詩歌人といったイメージが一般的に強く、学びの対象としてはどこか遠い感じがするのではなかろうか。それは良寛を、その時代の要請によって、戦前であればモラルの見本、人格者、戦後の一時期であれば一般大衆、いわば労働者の味方といった風に祭り上げてきたためではないか、と考える。

本当の良寛は、そこからは見えてこない。良寛の生き方に誰しもが直観的に抱く、心の豊かさ、瑞々しさ、そういったものに近付くのはどうしたらいいのか。本論文は、そうした素朴な思いから、一人の人間としての良寛を追跡し、人間良寛を明らかにする中で、その魅力の本質に迫り、そこから浮かび上がってくる現代社会に対してのメッセージを探るというものである。

そのためにエイジング、生涯学習などの視点から良寛に焦点を当てた。エイジングの視点から言えば、老いて行く中で良寛は、どのような人生体験を経験し、成長していったのか。父母、師、友人たちとの出会いはどういう影響を与えたのか。老いの問題に対してはどう対処したのか。

生涯学習の側からみれば、エイジング、老いて行く過程での良寛の学びとは何であったのか。人生体験での学びと生き方は、どのようにつながり、なぜ人生の豊かさをあのような形で求めたのかを探っている。

エイジング、生涯学習などの視点から、いわば人間良寛を“解剖”するという試みは、あまり例のないことと思うが、従来の聖僧、詩聖といった見方からでは抽象的人物像に終わってしまう良寛を分析するには、具体的な現代感覚にマッチした概念が、切り口として最も人間良寛を理解しやすいのではないか、との観点からこの方法を選んだ。

そうした良寛のエイジングの軌跡の上に立って、その生き方、思想を分析する時、はっきり浮かび上がってくるのは、今まで考えられたてきたような隠遁者の発想ではないこと。鋭い人間洞察力をもった、きわめて近代的な自我を感じさせる実存的人生に裏付けられた人物であるということである。

良寛の生き方、思想の現代性は、まさにそうしたところにあると考える。現代人の心の貧しさは、戦争、テロ、そして国内では教育現場の混乱など青少年問題、地域社会の崩壊などの問題を生んでいる。一方で経済優先、競争原理の中、地球資源の問題などエコロジーの問題も深刻化の一途をたどっている。

良寛の無一物思想、あるいは愛の精神は、良寛を「特別な人」として慕う人は多くても、これまであまり省みられてこなかった。しかし、良寛のそうした生き方、思想が非常に現代社会の問題解決への大きなメッセージをもっていることを、一人の人間としてのエイジング、生き方から明らかにしたい、というのが、本論文の趣旨である。